

八中3年人権だより

徳島市 八万中学校
3年生 第22号
2024年12月2日
編集・文責 吉成正士

たことがありました。腹が立つやら、泣きたくなるやらで、悔しい思いになりました。でも、「もっと読んでもらえる人権だよりにしよう」と、気持ちを切り替えて作ることにしました。

同じように、どうしてこんなに大切な教育なのに広がらず、大切にもされないのかと、嫌になったり無力感にかられたりすることがあります。逆な言い方をすれば、人権教育への関心が低くなっていくということは、人間社会の終わりでないかとすら思います。確かに発表する人もいれば、発表まではできない人もいます。過去には、発表しない人に対して、「どうして発表しないんだ！」と訴えたい気持ちになったこともありました。でもその気持ちも、「班の中でなら」とか、「まず気持ちをつくるのが大切」とか、「まずそこにいるのが大切」と思えるように変わってきました。そうなるまでにはすごく長い年月が必要だったわけですが、今はそんな訴えたい気持ちを抑え込むだけの、我慢強く信じ抜こうとする気持ちももっています。もしかすると、皆さんも同じようなジレンマに陥るかもしれませんが、そのときは私の辿った道のりを思い返してもらえればと思います。



たくさんの思い出があるふるさと

■僕は今回の人権学習で、大切なものは失って初めて気づくという言葉が心に残りました。僕は以前、父と一緒に祖母の家に行きました。家に向かう途中に父の思い出の場所に行こうという話になり、行ってみただけ、ほとんどが空き地になっていました。父は自分が生まれ育ったふるさとの思い出がなくなっていくのが寂しいと言っていました。僕は、今自分が当たり前のように住んでいるふるさとにはたくさんの思い出が詰まっています。大切なんだと知りました。部落の人々も自分のふるさとにたくさんの思い出があって、そのふるさとのことを人に言えないのはとても悲しかったと思います。住む場所で差別されることは絶対にあってはならないと思います。1年生のときはあまり発表できなかったけど、人権学習を通して人前に立つのに慣れることができました。高校に行ったら人権学習が少なくなったり、なくなったりするけど、この3年間の経験は自分の人生に役立つと思っています。

4組MY

お父さんの思いにふれられてよかったです。同じ親の立場としてうれしいし、ありがたいです。

親の思いにふれることは、ありそうで実はあまりありません。それは、実は一番身近にいながら、ほとんど何も知らないのと一緒です。不思議なことですが、それが事実です。すべては無理でも、せめて少しでも親の思いにふれることができれば、それは皆さんが生きていく上でも、心の支えや、生きていく頑張りにつながるのではないかと思います。

丸岡さんの思いにふれた「吾子」も、同じでなかったかと思っています。そのことの大事さを学びとることができたなら、「ふるさと」を学習した意味があるというものです。



終わってから気づくことは僕たちで

■最後の人権学習、入りからあまり手が上がらず、「最後ののにすぐ終わってしまうんじゃないか」と、少し不安でした。けどやっぱり先生はすごかったです。最後にふさわしい人権学習になったと思います。

まず吉成先生の映画の話では、人権学習を主となって動かしている吉成先生でも、「自分なんてまだまだ知らないことだらけ」というのが衝撃でした。自分も「知った気」にならずに、これからも学び続けていかなければいけないなと思いました。最後に気づけて良かったです。

布川先生、西浦先生の話では、「失って初めて大切に気づく」という言葉を一番心に残してくれました。確かに今、「早く高校生になりたい」「中学1年生に戻れたら」と思っている自分があります。けど、「今の楽しさに気づけていない」という言葉に、自分も気づけていなかったなと思いました。また、「失ってから気づく」ということを、僕は今までにいろんな場面で、いろいろな経験をして知っているはずなのに気づけていなかったの、これからをもっと大事にしようと思いました。

最後の田中先生の話では、今までで一番差別という存在を身近に感じました。あまりよくない表現かもしれないけど、あんなにいつも明るく楽しそうな田中先生が、差別と隣り合わせで、悩みながら生きていたなんてと。でも同時に今まで学んできたとおりに、生まれた場所でなんて関係なかったと思うし、生徒と先生という関係でも、信用して打ち

明けてくれるような関係になっていたことに、今まで学習してきた意味を一つ理解できた気がしました。中学校最後の人権学習、大切さを分かってきたつもりですが、「終わってから気づく」こともまだあると思います。今度は僕たちがそれを発信していきたいです。 3組FS

学校は信頼関係で成り立つ。そう信じたいと思います。それは皆さん同士でもあるし、教員と生徒間でもあるし、家族内でもそうだし、保護者と教員間でもそうです。学校は皆さんにいろんな学びを提供する場所ですが、その根本にこの信頼関係がなければ、本来は成立しません。でも、学校で初めて出会う、すぐに信頼関係ができるわけではありません。互いに分かり合おうとする努力があって初めて、一つ一つ、少しずつその信頼関係は積みあがっていくのだと思います。

今回のような人権学習においてもそうです。皆さんが自分のことを語り、教員も自身の思いを語り、互いの腹の底にある思いが飲み込めて初めて、信頼関係が築けていくのだと思います。

それは学校という場所だけの話ではありません。どんな場所でも、どんな環境でも同じことです。すぐにはできないかもしれませんが、それでもその信頼関係を築いていくことです。そして互いを知り合い、認め合い、支え合おうとする関係性をつくることです。それが弱まっていると言われる現代社会だからこそ、敢えて意識して、こんな学習を大事にしていきたいと思います。



あなたたちなら大丈夫

■今日、全体人権学習が最後という節目を迎えて、3年間を振り返ってみると、Fさんも言っていました、長いようで短い期間でした。1年生のときの自分と3年生の今の自分を比べると、自分でもわかるくらい成長したと感じました。自分が思っていることをうまく言葉に出せなかったあの時の私に声をかけてくださった先生方に感謝しています。また、吉成先生の誘いを受けて中学生交流集会に参加したり、発表したり、人権への関心が深まったと思います。

今日の発表のなかで、田中先生のお話が一番印象的でした。「3年間見てきて、あなたたちなら言っても大丈夫と思った。」その言葉が深く刺さりました。吉成先生が私たちに影響を与えたように、私たちも誰かに影響を与えることができると思い、人権学習は人との信頼性を高めていくものでもあるのだと思いました。最後にこれまで3年間人権学習をしてきて、人とのつながりであったり、自分のことや相手のことを知るきっかけであったり、様々な人とのコミュ

ニケーションのとり方を学べたと思います。この学年でこのような集会は最後でしたが、人権についてこれからも学び続けようと思います！ 4組MC

信頼関係で成り立っている

■私は今日、中学校最後の学年全体人権学習を受けて、たくさんのことを学べたなと思いました。1年生のときは、学年全体で人権学習をするということは初めてで、何も思っていなかったけど、回数を重ねていくうちに、とても大切なことを学んでいると感じ、真剣に取り組むことができたと思います。

今日、一番心に残ったのは田中先生のお話です。やっぱり心の中で、「遠い話」と思っていた自分がいたけれど、改めてやっぱり違うんだと思いました。田中先生が言われていた「この子たちなら大丈夫」という言葉を聞いて、先生も生徒も信頼し合っているとても素敵な学年だと、最後の最後で気がつくことができました。今までの人権学習を今日で終わりにするのではなく、「いつか」のために自分自身でも学んでいこうと思いました。そしてこれからの人生で、人権のことについて自信をもって発言していきたいなと思いました。 3組TA

Fさんがしてくれた発言は次のようなものでした。

私は「ふるさと」の資料を読んで、自分の心に刺さったのが、「吾子よ お前には 胸張ってふるさとを名のらせたい」という、丸岡さんが「吾子=我が子」に伝えたいようなことです。私は「ふるさと」を通して中学校生活をあらためて振り返ると、長いようで短かったような気がします。そして中学校生活のおよそ3年間に渡って学習してきた八中方式を使った人権学習で、私は最初の方は今のようにならずにちゃんと発表とかはできてなくて、でもちゃんと拍手したり頷いてくれる同級生がいて、ここまで発表できるようになりました。そんな人権学習も今回で最後です。大切な友、大切な家族、それに大切な故郷に、めいっばいのありがとうという言葉を持ち、故郷を出ることになっても、私の故郷はとても素晴らしい故郷だと伝えようと思います。ありがとうございました。 (5組FA)

おそらくですが、みんな影響を与えようと思ってしているわけではないように思います。例えば、皆さんが必死に一生懸命にしてきたこと。部活動であったり、勉強であったり、合唱発表会であったり、体育祭であったり。何も考えず、ただひたすらに懸命にしている姿に、見る者は感動するのです。とりわけ部活動での姿は感動するに値します。1点を追い、無心で走り、懸命に追いかけて、飛び込み、飛び跳ね、食らいつき。全身を伸ばし、届かない目標にそれでも手を伸ばそうとする必死さに、「頑張れ！」と願うし、応援したくなるのです。音楽でも同じです。次の1音が思うように発せられるか、ハラハラしながら、まるで綱渡りでもしてるかのように耳が集中します。1音1音に感動が凝縮するのです。その姿に感動を覚えるのです。

人権学習で「自分を語る」とき、何が飛び出してくるかなんて分かりません。でもそこに、発言者の必死で誠